

MSGはJPSPへ進化します

2006年8月に、カウンセラー・コーチ・臨床心理士の3名でスタートしたメンタル サポート グループ(MSG)がこの秋(10月)、JAL Peer Support Program(JPSP)へと進化します。

Mental Support Groupが

JAL Peer Support Programへ変わる理由

この度、JPSPとして大きく舵を取るようになった理由は以下の2つです。

- ①世界の航空会社でパイロット サポート プログラム設置の流れがある
- ②乗員のためのメンタルヘルスに関する信頼ある制度が必要である

今まで乗員の皆さまから多大なるご理解とご支援を頂きましたことに感謝申し上げますとともに、これからは世界の流れも視野に入れ、更なる乗員のためのメンタルヘルスに関する総合的なサポート体制を提供していきたいと考えています。

JPSPの詳細につきまして、今後シリーズ化して1週間ごとにお伝えしていく予定です。

- 1回目：“MSG” 進化します！JPSP始動へ (世界基準に合わせた活動と国内の動き)
- 2回目：どうかわるの？なにが変わるの？
- 3回目：活動内容の紹介～具体的な運用方法等～その1
- 4回目：活動内容の紹介～具体的な運用方法等～その2
- 5回目：Q&A



パイロットサポートに関する世界の動き

2015年に発生したGERMAN WING機の事例以降、パイロットがメンタル不調を含む一時的な不適応状態で航空業務に就くことが無いよう、パイロットのメンタル面でのサポート・プログラムの設置を義務化する動きが世界で加速しています。

欧州域内

EASA(欧州安全委員会)により欧州域内の航空会社にパイロットサポートプログラムの設置を**義務化**（今後は未設置の航空会社の乗り入れ禁止も検討されています）

FAA

パイロットアシスタンスプログラムの設置を**推奨**（今後欧州に追従の可能性も）

ICAO

各航空会社においてピアサポート制度の活用を**推奨**

日本

同様の動きが既に始まっており、この動きは加速していく見込みです。

(2017年には、健康管理ガイドライン基準で『乗員同士によるピアサポートの活用について』の内容が盛り込まれています)

世界のパイロットサポート/アシスタンスのプログラムの設置/義務化/推奨の流れがある中で、日本ではパイロットによるアルコール事案が多発し、JCABとしても対策の必要性を感じていて、欧米の流れを注視しながら、導入に向けての検討を模索していました。

JALでは、多発したアルコール事案やEASA/FAA/ICAOの動きを受けてパイロットサポートのためのプログラム設置の検討を2019年から進めてきました。2020年度からは、(公財)航空輸送技術研究センター ATEC(Association of air Transport Engineering reserch)の会議において、JAL/ANA/JJP/SKY/三菱航空機(株)/航空局とともに本邦内導入に向けての検討を進めてきました。そしていよいよJALではJPSPとしてこの秋(10月)から欧米とほぼ同等レベルのピアサポートプログラムをスタートします。

(ANAも時を同じくしてピアサポートを10月より開始します)

今回のピアサポ便りでは、JPSPの詳細についてご紹介いたします。

